

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2014年(平成26年)5月16日 金曜日

無料

第24号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)5月16日 金曜日

春の東北・新観光産業の未来

東北活性化に観光産業寄与确实 去年は訪日客増加、地方も増加 東北はPR不足でまだまだ未開拓

魅力いっぱい東北

ここ2年ほど、新聞取材で東北をあちこち歩いてるが、人にすすめたくなる山や湖などの景色、温泉、民俗芸能、まつり、アート、工芸、さらには大部分が未発掘ともいえる東北古代史、縄文の遺跡などにたくさん遭遇する。それらは、人にすすめて喜ばれるのは確実で、いつも人に紹介したくてうずうずしている。しかし全国的に名が知れているものはごく少ない。そのため、ごく一部の地域の人々、愛好家の間で楽しまれてはいるが、それ以上の広がりはないのが実情である。それが悪いというのではないが、さびしい限りであるし、宝を眠らせておくのももったいないと思

うことしばしばである。

これらを観光資源として活用できたら、大震災発生前から下降を続けている東北の活性化のためどんなにか寄与するだろうかという考え。また国内だけでなく、海外にも積極的にPRし、多くの観光客を誘致できたら、東北も一変するのではないだろうかと思ったりもする。

一方で、観光みやげもの屋さんが立ち並ぶような従来の観光地にはしたくない。それではせっかくの魅力が手垢まみれになり、魅力そのものも半減してしまいうような気もする。やはり東北なりの工夫も必要であると思う。

観光業は東北復興のための切札

数ヶ月前、当新聞第20号で、「民間復興プロジェクトによる東北復興は可能か？」と題し、東北復興のための有望産業についてアンケートを行った。

それによると「食文化含む観光事業関連」が最も多く6割強、次いで、「アートや文化関連」が2割強、その他という結果だった。

東北の復興に関心のある方々は、観光と食とアートと文化をベースにした民間復興事業を考えているようであり、筆者もこの方向に大賛成である。

あとは、いかにしてこれを産業化していくかということであるが、そう簡単で

はない。

知名度はまだまだ

4月24日の日経新聞に、昨年の訪日客の記事が掲載された。それによると訪日客は前年比26%増と大きく増加し1098万人。初の1千万人台に乗り、しかも北海道や福岡などの地方都市にも拡大したという。

残念ながら東北が増えたとの指摘はないが、地方経済にとり外国人旅客の支出効果は大きく、今後のオール東北の努力如何では観光事業大成長の余地はある。ついでに、東北6県バラバラでなく、かつ従来手法にこだわることなく、斬新な手法で取り組むことを期待したいものである。

まずは観光資源体験

観光事業化はさておき、とにかく東北の魅力はまずは現地に赴いて実感していただきたいと思う。

今回、3紙面を使い、東北の観光資源の魅力の一端を、さまざまな切り口からお見せする。まだまだほんの一部であり、とても魅力を語りつくせとは思わないうが、国内と言わず、世界に出て十二分に魅力的な観光資源であると考え。

ただ、前記のように、PR不足であることは確かだ。万事に控えめな東北であるが、これからの東北復興、ひいては東北活性化のためには、一歩も二歩も前へ出なければならぬと思う。

風の沢ミュージアム (宮城県栗原市)

現代美術と古民家のコラボ美術館 世界的な陶芸家・泉田之也氏の作陶展で4/20シーズンオープン



風の沢ミュージアム全景

現代美術と古民家のコラボというユニークさ
風の沢ミュージアムは知人のアーティストから以前教えてもらった。ずっと訪問したいと思っていた。

場所は宮城県栗原市一迫。東北自動車道「築館」IC.あるいは「若柳金成」IC.から車で25分。最寄駅からはかなりの距離だが、のどかな風景のなかに、ミュージアムには見えない茅葺屋



泉田之也氏作品



作品を背景に泉田氏

根の建物群が出現する。修復した古民家に現代美術作品を展示し、併せてさまざまなイベントも開催するという変わった趣向であり、他でもあまり見かけない方式である。

て、4月20日からオープンで、そのオープニング当日に筆者が訪問客第一号としておじゃました。折しもちょうど桜も咲いていて天気も良く、絶好のオープニング日となった。



栗原・城生野神楽一鶏舞

来賓の祝辞の後、今シーズンのミュージアムの無事を祈り、地元栗原の南部神楽・「城生野(じょうの)神楽」の「鶏舞」というエ



泉田之也氏作品



泉田之也氏作品



ミュージアム内の釜神さま

【王思考 泉田之也展】

オーブニングの展示は、岩手県野田村で作陶する世

このミュージアムはとにかく一見の価値あり。おすすめである。

また、筆者はこの神樂のことが以前から知っていたが、そこで出会えたのもまた奇遇と言える。

訪問客は作家自らの案内で、建物内だけでなく、屋外展示作品も見た。巨大な作品が、部屋の床をはがして砂を盛った空間に展示され、あるいは屋外で展示さ

れている場所でも焼かれた作品もあり、とても刺激的な展示であった。土の素材感を活かしたつ、折りや重ねの繊細さとのコラボが見える。

祝いの席への出演依頼が多いというが、舞手のエネルギーに圧倒された。

以前からこの作家の作品を直接見たいと思っていたが、ようやく願いが叶っただけでなく、作家から直接作陶のお話も聞けるという幸運にも恵まれた。

とても切り返しが早く、勇ましく、優雅で、昔から祝いの席への出演依頼が多いというが、舞手のエネルギーに圧倒された。

ネルギツシユな舞が披露された。この舞は、栗原市無形文化財にも指定されているとのことである。

世界的な陶芸家・泉田之也氏の作品とインスタレーションの数々。

以前からこの作家の作品を直接見たいと思っていたが、ようやく願いが叶っただけでなく、作家から直接作陶のお話も聞けるという幸運にも恵まれた。



泉田之也氏作品

東北復興桜海道 (4/19・20)

- ① 福島・三春 「滝桜」
- ② 岩手・北上 「展勝地と民俗むら」
- ③ 宮城・栗原 「栗駒高原」
- ④ 宮城・涌谷 「城と桜」
- ⑤ 岩手・一関 「鯉のぼりと桜」



岩手・北上一みちのく民俗むら

4月19、20日の2日間で、福島、宮城、岩手の桜を見て回った。かなりの強行軍で、ゆっくり桜の花をめでながらの取材とはいかなかったが、南北約220キロの距離と桜名所の数を稼いだ**東北桜海道**であった。

☆ 圧巻は何と言っても福島・三春の「滝桜」。郡山から磐越東線で三春へ、そしてバスで「滝桜」へ。現地着予定が夕方になり、薄暗かつたら夜桜のライトアップかなと思っていたら、



福島・三春一「滝桜」



宮城・涌谷一城と桜

☆ 何とかなに合った。夕方なのに、歩くのも大変なほど人でごった返していた。種類はエドヒガン系の紅枝垂桜(ベニシダレザクラ)。国の天然記念物の指定を受け、樹齢は推定千年以上。日本三大桜のひとつ。

☆ 岩手・北上の展勝地は桜の名所としてつとに有名。北上川沿いの約2kmにわたる樹齢90年を越す500本のソメイヨシノが桜のトンネルを作り出している。しかし少し早かった。一分



岩手・北上一展勝地は一分咲き



岩手・一関一「鯉のぼりと桜」

☆ 咲きと二分咲きの間といったところか。近くの「みちのく民俗むら」に行ったら、とても古い物置小屋の脇に、小さな桜が咲いていた。とてもかわいいう桜であった。

☆ 最後は、筆者の故郷の宮城・涌谷町の桜。涌谷城を背景にした桜はまたいい。近くでは挽馬大会が開かれていた。桜祭りである。



宮城・栗原一栗駒高原と小さく見える桜

岩手—花巻・北上の観光資源

(郷土芸能と文化と歴史と温泉とSL)

花巻—SL銀河、春日流八幡鹿踊、花巻—
豊沢湖、大沢温泉、北上みちのく民俗むら、
北上市博物館、北藤根鬼剣舞



SL銀河

春日流八幡鹿踊と
花巻・SL銀河

今回の一連の東北取材の
最初の目的は、筆者の友人

で、春日流八幡鹿踊の中
立(なかたち：リーダー)で
ある花巻の藤原氏に会いに
行くことだった。ついでに
この鹿踊団体が花巻駅で
「SL銀河」を見送るため
に踊るのを見たかった。こ
こしばらく鹿踊を見ておら



春日流八幡鹿踊 花巻駅にて



北藤根鬼剣舞

ず、無性に見たい、あの太
鼓を聞きたくなったのだ。
一方、「SL銀河」はいま
「撮り鉄」に大人気で、こ
の4月12日から、岩手・花
巻から釜石までの釜石線を
走っている。鹿踊保存会
列車が発するたびにいつ

も踊る訳ではないが、藤原
氏に4月19日午前に出番が
あると教えてもらい、馳せ
参じた次第。
さすがに当日は「撮り鉄」
だらけであった。そして筆
者は鹿踊と太鼓を久しぶり
に堪能させてもらった。
おまけに、有名な鹿踊の
ポスターのモデルになった



鹿踊ポスターのモデルになった
会長さんと藤原さん



北藤根鬼剣舞

その後、藤原氏に北上を
案内していただいた。まず
は桜名所の「展勝地」。そ
の近くの「北上市立博物館」

北上—展勝地・ 博物館・民俗むら

と「みちのく民俗むら」。
展勝地の桜は前記の通り
まだ早かったが、近くでは
「北藤根鬼剣舞」を拝見。
北上といえば鬼剣舞である。
博物館では筆者の大好き
な「縄文」だらけであった。
「修験道」もあった。言う
ことなしであった。見とれ
るあまり博物館のコースを
一往復半してしまっ
た。



まだ雪の残る豊沢湖

民俗むらに移って
もまた「縄文」。竪
穴式住居が並んでい
る。たまらない。そ
してかわいい桜にも
出会った。
花巻—豊沢湖
・大沢温泉
・居酒屋「早池峰」
少し移動し、花
巻の奥座敷・豊沢
湖に行った。あた
りに人っ子ひとりい
ない場所で、さきほ



北上みちのく民俗村

汗を流し、身体をほぐし
た後は、花巻の地酒で乾杯。



春日流八幡鹿踊一人舞

東北観光の 新方式

ここに挙げたのは、東北
の、いや岩手のほんの一部。
これだけの宝を東北人が
独り占めしてはいけない。



北上市博物館—縄文土偶



大沢温泉 露天風呂からの眺め

仙台よ、「大きな田舎」であれ!

首都圏で 遭遇した話?

先日、facebookで友人が満員電車で遭遇したエピソードについて投稿していた。出入口付近だけがぎゅうぎゅう詰めで、車掌がいくら車内アナウンスで「中ほどまでお進み下さい、ご協力お願い致します」と呼び掛けても誰の耳にも届かない。ばかりか、新たに乗り込もうとする人を犯罪者でも見るような目で睨む人すらいた。その車内において「あと一歩ずつ皆で中に進めばこんなに隣人を憎むことは無いのに」と思ったその友人は思わず「すみませーん、もう一歩だけ中に進んでもらえると助かりますー!」と叫んだそうである。

友人はその投稿でこう結んでいた。「中にいる人が皆に促せるようにしたいね。スマホいじって知らん顔は、ちよつと冷たいんじゃない??もしかしたら、何かあった時に助けてくれるのがその人達かもしれないぞ」と。本当にその通りである。

さて、その投稿を読んで、コメントで「都内の電車の話ですか。よく御無事でお帰りなさいました」と書いた人がいた。関東にいる人だろうか、「わかる!!」「スマホいじって知らん顔!」。関東に初めて来て、ほんとに同感です」と書いた人もいた。「東京の電車は乗車制限掛ければ?って思う」というコメントもあった。

その友人が県外にもよく出張することを知っていたので、私もつきり友人が首都圏で遭遇した話かと思つた。ところが、このエピソード、決して首都圏の話ではなく、なんと我々宮城県人にとつて馴染み深いJR東北本線で遭遇した話だというのである。

顔を、ちよつと冷たいんじゃない??もしかしたら、何かあった時に助けてくれるのがその人達かもしれないぞ」と。本当にその通りである。

さて、その投稿を読んで、コメントで「都内の電車の話ですか。よく御無事でお帰りなさいました」と書いた人がいた。関東にいる人だろうか、「わかる!!」「スマホいじって知らん顔!」。関東に初めて来て、ほんとに同感です」と書いた人もいた。「東京の電車は乗車制限掛ければ?って思う」というコメントもあった。

私を含めて恐らく、この友人のエピソードを読んだ多くの人が感じたことは、「満員電車」、「他人に無関心」といったことから、ほとんど脊髄反射的に首都圏の話であると考え、当初自分たちには関わりのないことと思つた。「東京というのはやっぱり冷たいところなんだね」くらいに思つた人もいたかもしれない。

ところがそれが首都圏の話ではなく、東北本線というごく身近な場で起こつたことであることが分かつて、少なからずショックを受けた人は多かったのではないかと思う。

ちなみに、私はこの投稿に「みんな、持っている優しさのうちのほんのちよつとずつ発揮すれば全員ハッピーになれるのにね。都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いて、後に挙げる「津軽線」での話を書いて、「仙台には大きな田舎でいてほしいです」とコメントした。

「都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いたのにはもちろん、私なりの実感があつたのである。

後つてみんなお互い様で声がけも出来ていたと思ひます。戻つてしまつたのかなあ。コミュニケーションな

さすぎだよね。だから、子連れのお母さんとかが辛い思いをするんだよね。声掛け合つたら、皆気持ちよく

むの。私も声かけるタイプだけど、少ないね。みんな、黙つてないで言葉を発しようぜ!

このコメントにあるように、恐らく無関心に見えた人も決して「非情な人」「冷たい人」というわけではなく、人に違ひない。他人事に首を突つ込まない、その代わりにこちらにも首を突つ込んでくれるなどという「相互不可侵」的な雰囲気があるだけなのだろう。

ちなみに、私はこの投稿に「みんな、持っている優しさのうちのほんのちよつとずつ発揮すれば全員ハッピーになれるのにね。都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いて、後に挙げる「津軽線」での話を書いて、「仙台には大きな田舎でいてほしいです」とコメントした。

「都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いたのにはもちろん、私なりの実感があつたのである。

後つてみんなお互い様で声がけも出来ていたと思ひます。戻つてしまつたのかなあ。コミュニケーションな

さすぎだよね。だから、子連れのお母さんとかが辛い思いをするんだよね。声掛け合つたら、皆気持ちよく

むの。私も声かけるタイプだけど、少ないね。みんな、黙つてないで言葉を発しようぜ!

このコメントにあるように、恐らく無関心に見えた人も決して「非情な人」「冷たい人」というわけではなく、人に違ひない。他人事に首を突つ込まない、その代わりにこちらにも首を突つ込んでくれるなどという「相互不可侵」的な雰囲気があるだけなのだろう。

ちなみに、私はこの投稿に「みんな、持っている優しさのうちのほんのちよつとずつ発揮すれば全員ハッピーになれるのにね。都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いて、後に挙げる「津軽線」での話を書いて、「仙台には大きな田舎でいてほしいです」とコメントした。

「都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いたのにはもちろん、私なりの実感があつたのである。

後つてみんなお互い様で声がけも出来ていたと思ひます。戻つてしまつたのかなあ。コミュニケーションな

さすぎだよね。だから、子連れのお母さんとかが辛い思いをするんだよね。声掛け合つたら、皆気持ちよく

むの。私も声かけるタイプだけど、少ないね。みんな、黙つてないで言葉を発しようぜ!

このコメントにあるように、恐らく無関心に見えた人も決して「非情な人」「冷たい人」というわけではなく、人に違ひない。他人事に首を突つ込まない、その代わりにこちらにも首を突つ込んでくれるなどという「相互不可侵」的な雰囲気があるだけなのだろう。

ちなみに、私はこの投稿に「みんな、持っている優しさのうちのほんのちよつとずつ発揮すれば全員ハッピーになれるのにね。都会と田舎の違いって、見ず知らずの他人に関心を持っている人が多いかどうかの違いだと思つたりします」と書いて、後に挙げる「津軽線」での話を書いて、「仙台には大きな田舎でいてほしいです」とコメントした。

仙台には大きな田舎 でいてほしい

遠い大都会での話だと思つてた出来事が一転、自分たちの足元で起こつてたことを受けて、この投稿にはさらにコメントが寄せられた。

「無関心な人はいないと信じます。一歩踏み出す勇氣が少ないのでは?そこで、肩を押してあげる一言で気持ち・思いやりの心が回復するのではないだろうか。3年前の支援はそれを物語っている」

「知り合いだと愛想良くするのには、他人同士だととても冷たい態度。なんでこうなんでしようね?震災の直

とである。先日、青森駅から三厩(みんまや)行きの津軽線の列車に乗る機会があつた。旧三厩村は津軽半島の北端。館を襲撃される前に平泉を脱出した源義経が辿り着き、3頭の天馬を授かつて対岸の北海道に渡つたという伝説が残る村である。三厩の名前もそれ由来する(今は合併して外ヶ浜町の一部になつてい

る)。

車内で席に座つて発車時刻を待つていたところ、同じ車両にいた老婦人から「失礼ですが、乗る列車をお間違えではないですか?」と声を掛けられた。私が仕事着姿だったので、津軽半島の端に向かう列車ではなく、本当は東京行き東北新幹線に接続する新青森行きの奥羽本線に乗る人なのではないか、と思つてわざわざ声を掛けてくれたのださうである。有難いことである。

こんなこともあつた。会津若松の芦ノ牧温泉から南会津方面に行く折のこと。芦ノ牧温泉での打合せが長引いて南会津行きの列車に乗り遅れてしまつた。次の列車が来るまで2時間近くもあつたので、駅でじつと待つていたよりはと思ひ、鉄道に並行する国道をてくてく歩いてた。そうしたら、中年のご夫婦が乗る車が私の脇に止まつて「よかつたら乗つて行きなさい」と言つてくださった。そう言えば、普段あまり人が歩いていない道なのだろう、歩いていて人にすれ違ふことは一度もなかつた。そのような道を、大きな荷物を持つて歩いてる私を見て、一度通り過ぎた後、わざわざUターンして引き返してくださったということであつた。有り難くお言葉に甘えさせていただいた。

秋田の某市にある病院に行つた時も打合せが長引いて、最寄りの駅(と言つても6kmくらい離れていて)に行くバスがなくなつてしまつた。やむを得ず、これまた駅までの道をてくてく(とぼとぼ?)歩いてきたところ、「回送」と表示された路線バスが私のそばに止まつた。開いたドアから運転手の方が「駅近くの営業所まで帰る途中なので、よかつたらどうぞ乗つていってください」と言つてくださった。

この時も多分私の身なりから地元の人間ではなく、また歩いてる方向から駅に向かつているものと判断してくれたのだろう。本当は回送のバスには人を乗せてはいけないことになつてい

るさうである。実際、私が降りるところを会社の誰かに見られてはいけないというので、営業所のかなり手前で下ろしていただいた。善意で乗せてくださった運転手の方に迷惑が掛かつてはいけないので、ここでは具体的な地名は伏せさせていただく。

私が遭遇した事例を3つ

ほど挙げさせていただいたが、いずれも大都会ではなく、東北のよある片田舎で体験したことである。他にも東北のあちこちで、まつたく見ず知らずの人に親切にさせていただいた経験は思い返してみてもとても多いことに思ひ至る。残念ながら、東京に出張した折にこのような経験をしたこと

は今のところない。そうして、最寄りの駅(と言つても6kmくらい離れていて)に行くバスがなくなつてしまつた。やむを得ず、これまた駅までの道をてくてく(とぼとぼ?)歩いてきたところ、「回送」と表示された路線バスが私のそばに止まつた。開いたドアから運転手の方が「駅近くの営業所まで帰る途中なので、よかつたらどうぞ乗つていってください」と言つてくださった。

この時も多分私の身なりから地元の人間ではなく、また歩いてる方向から駅に向かつているものと判断してくれたのだろう。本当は回送のバスには人を乗せてはいけないことになつてい

るさうである。実際、私が降りるところを会社の誰かに見られてはいけないというので、営業所のかなり手前で下ろしていただいた。善意で乗せてくださった運転手の方に迷惑が掛かつてはいけないので、ここでは具体的な地名は伏せさせていただく。

私が遭遇した事例を3つ

ほど挙げさせていただいたが、いずれも大都会ではなく、東北のよある片田舎で体験したことである。他にも東北のあちこちで、まつたく見ず知らずの人に親切にさせていただいた経験は思い返してみてもとても多いことに思ひ至る。残念ながら、東京に出張した折にこのような経験をしたこと

は今のところない。そうして、最寄りの駅(と言つても6kmくらい離れていて)に行くバスがなくなつてしまつた。やむを得ず、これまた駅までの道をてくてく(とぼとぼ?)歩いてきたところ、「回送」と表示された路線バスが私のそばに止まつた。開いたドアから運転手の方が「駅近くの営業所まで帰る途中なので、よかつたらどうぞ乗つていってください」と言つてくださった。

この時も多分私の身なりから地元の人間ではなく、また歩いてる方向から駅に向かつているものと判断してくれたのだろう。本当は回送のバスには人を乗せてはいけないことになつてい

るさうである。実際、私が降りるところを会社の誰かに見られてはいけないというので、営業所のかなり手前で下ろしていただいた。善意で乗せてくださった運転手の方に迷惑が掛かつてはいけないので、ここでは具体的な地名は伏せさせていただく。

「他人事」を「自分事」としてとらえる

私の津軽線での話以外にも先の投稿では別の友人が、故郷の新潟で遭遇した出来事として、バスの中で「二万円札しかないよ。どうしましょうか、運転手さん」という客がいると、運転手がなにか言う前に他の乗客から「あ!私両替できるよ!」「私もできるよ!」という申し出が出てくるという話を紹介してくれた。この友人は、「このお節介ぶりは田舎はみんなさうだと思つていたので、必ずしもさうではないというところが分かつたあつた。仙台は人が多い。一人ひとりに気を配る余裕がないではないか」という声も出さうである。確かに、仙台の人口は東北随一の103万人である。しかし、対峙するのはその103万人ではない。その時々で注

意を向けるべきは、目の前の一人である。そこに都会も田舎もないように思う。要は、「他人事」を「自分事」として捉えられるかどうかだけである。

「情は人の為ならず」という言葉がある。情は巡り巡つて自分のところに返つてくるのだから、人のためではなく自分のためのものでないことである。冒頭の投稿で友人が書いた通りである。「恩送り」という言葉もある。誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ることを意味する。そうして恩が巡つていけば助け助けられる社会ができるのではないかと思う。端的に言えば、与えない人は受け取れない、これに尽きるのではないだろうか。

今日11日、仙台国際ハーフラソンに出場した。集合時刻になつてスタート地点に向かう途中、後ろから「背中のゼッケンが捲れますよ。直しますからちよつと止まってください」と声を掛けられた。振り返ると、私より年上の男性ランナーだつた。スタート前の緊張する時間帯、それでも他の選手の様子に気が付く心のゆとり、素晴らしいと思つた。ちなみにこのマラソン、1万人を超える参加者のうち、地元からの参加が半分以上ださうである。仙台、まだ立派に「田舎」だと言つていいようである。

「他人事」を「自分事」としてとらえる

執筆者紹介

大友浩平

(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.otomo>

連載
むかしばなし

芭蕉のむかしばなし

第十二話 崖の上のトヨ

若は静かに眠っていた。

祝魚と長里国八郎はこの病身の少女を裏切られた雰囲気のある陸奥国分寺に託して、泰衡の案内で寺の外へ出た。数百年後には都市仙台が広がるはずの、宮城野の原野を北西に走り抜ける。「馬は乗らんのか。」

馬上から泰衡が声をかける。「乗った事がねえ。自分の脚で充分だ。」

水はけが悪いのか、所々が湿地のようである。「大天狗の結界ってなあ、一体どんなもんだ。」



奥羽越後氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出だし演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

泰衡、問われて答える。「一昨年、弟の忠衡がこの北東、多賀城の先にある塩竈の社に燈籠を奉納した。それで南西の青葉山、更に烏丸森までの一直線を結んだのだ。この方向は夏至と冬至の日の出入りに関係する。」

祝魚には何の事かさっぱりわからない。「そ、その直線上に多賀城があるという事は・・・この後到着する頼朝を？」

「長里殿、勘がお鋭い。これは呪い殺しの策なのだ。尤も、頼朝の方も相当呪術には関心ある様子だが。」

「・・・となれば、私もが例の六地点の結界を張る事は。」

「おそろく、六角の鏡目は強力に呪いを防御する。大天狗の結界は台無しになるべえ。」

「では、泰衡様としては、私どもを阻止せねばなりません。」

「忠衡様は、泰衡様が殺められたのでは・・・？」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「誰か歩いてる。」

「ああ、あの衣、トヨさんだべ。」

「あらためて、泰衡が呼びかける。林の中を彷徨うように歩く女性の姿が何やらひどく驚き怯えたように飛び上がった見えた。」

「トヨさん、どうされた・・・」

「トヨさん、どうされた・・・」

「トヨさん、どうされた・・・」

「埋め合わせ・・・家財も土地も売り払いながら家族六人の命を繋いでいる状況なのです。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「おっと、迂闊な事よ。」

「狗殿もここにおられる。」

「芭蕉が、手の中の小さな瓢箪を見せる。」

「その前に、お話ししておかねばなりません。」

「おっと、迂闊な事よ。」

シリーズ 遠野の自然 「遠野の春」② 遠野 1000 景より



桜開花

一年を月別に数字だけ並べただけのCalendar

春といえば、枕草子の書き出しの「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。…」はあまりにも有名である。

しかし筆者としては、ようやく雪が融け、春になって、一斉に花が開花する情景の方が、北国・東北の春を端的に表現していて好きである。冬の眠りから覚め、入れ替わり立ち代り、さま



しだれ紅梅

ざまな花が咲き乱れる。まさに生命躍動開始の季節である。冬の間はずっとその時を待ち焦がれているのである。

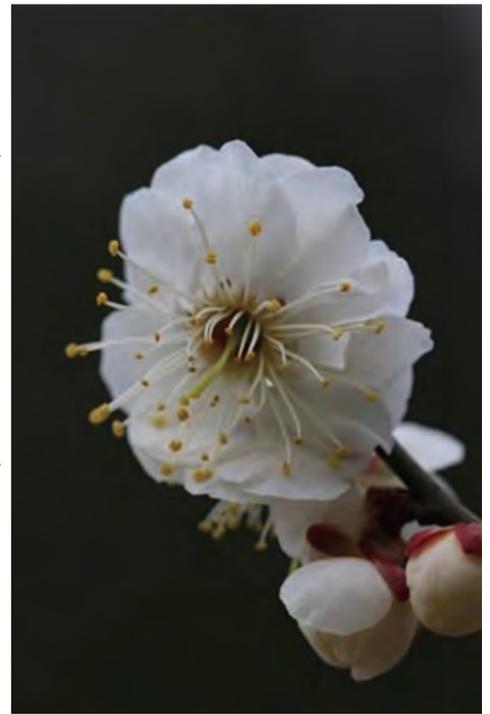
また、そうした光景を見ても、冬の寒さで強張った身体をほぐし、凍結していたエネルギーを外に開放し始める。春とはそんな季節だと思

最近、「二十四節季」というものがあることを知った。1年を24節に区切るのだが、太陽暦ではなく、太陽暦で、太陽の動きに連動する区分である。

夏至と冬至で二分し、さらに春分の日と秋分の日で分割、そこに立春、立夏、立秋、立冬を入れて8分割とし、最後にそれぞれを3分割して、24節に区分していくものである。

今年の写真は、立夏にふさわしい北国・遠野の春の花の写真を集めた。花だらけである。

まずはこの季節の主役と



白梅

もういべき桜。4月下旬が満開である。ソメイヨシノは全国どこのものでDNAが同じであると先日知った。ひとつ

の株から別れたということなのか。いまはだれもその誕生のいきさつを正確には知らないらしいが、みなクローンであることは確か

ようだ。梅もいい。白梅の凛とした高貴さもいいが、しだれ紅梅の初々しさはまた格別である。古代の花といえは梅であったのだ。

白いモクレンの、まさに満開前のつぼみ状態は、内にもすごいエネルギーを秘めているように見える。いままさに爆発(開花)せんとしている。

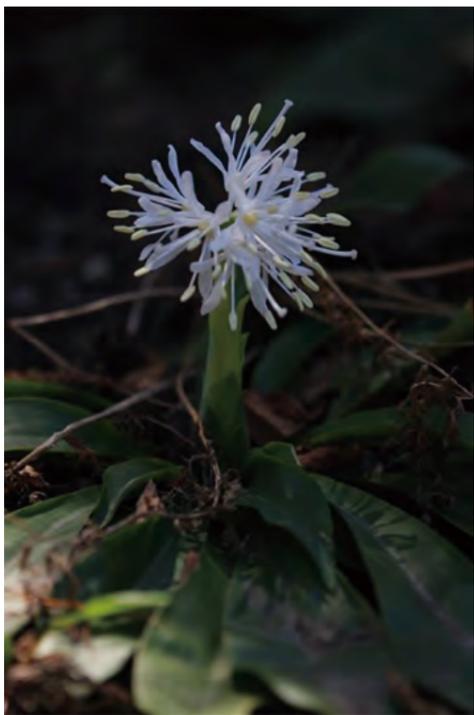
カタクリの花は、自然の造形の技をこれでもかと思せつける。何というデザインであろうか。やはり自然にはかなわない。



カタクリ



モクレン



ショウジョウバカマ



ハウチワカエデ

である。ハウチワカエデの開花は何と表現すべきか。これまた自然の造形のすごさを感じさせる。雄花と両性花が混生すると説明にはあるが、この写真のどれが雄花で両性花かは区別がつかない。

シウジョウバカマ。白花である。他に淡紅色、紫色もある。シウジョウバカマは「猩猩」で中国の想像上の動物。猿のような顔をもち、毛は紅色。大酒飲みらしい。花をこの「猩猩」に見立てて、葉を袴(はかま)に見立ててこの名になった。

過去、「3・11」のような自然の大災害があつても、自然は早晩、また春が到来すれば花を送り届けてくれたはずである。大いなる自然の循環である。そうやって古代の人々も自然災害を乗り越えてきたのだと思



東北の3つの醸造所が共同でつくる「東北魂ビール」

吾妻連峰山麓にある地ビール

東北地ビール紀行 その⑦ 福島県編 「東北魂ビール」もある!

横塚 3-182 TEL024-593-5859' http://www.f-beer.com/ である。福島市の西部、吾妻連峰の山麓に「アンナガーデン」という、聖アンナ教会を中心とした個性豊かなショップが揃うスポットがあるが、この一角に福島路ビールの醸造所がある。

ヨーロッパの麦芽を吾妻山の美味しい水で仕込んで醸造している福島路ビールは、ピルスナー、ヴァイツェン、デュンケル、レッドエール、それに福島県産米「ひとめぼれ」と県オリジナル酵母「うつくしま酵母」を使用した米麦酒(マイビール)、福島市特産の桃を使用したピーチエールの5種が定番で、それらに加えて最近では福島県内の果樹農家とタイアップして、「林檎のラガー」や「莓



みちのく福島路ビールは吾妻連峰山麓にある

のラガー」なども手掛けている。

醸造所に併設された売店で出来立てのビールが樽生で飲める他、同じ敷地内にある「セントヒルズ・ピッツァ」で樽生が、「イヴのもりカフェ」では瓶のビールが飲める。

市街地からは離れるが、福島交通バスで行くことができる。福島駅東口から土湯温泉方面のバスに乗り(約30分)、自治研修センターで下車して徒歩約10分である。

猪苗代湖畔にある地ビール

もう一つは、猪苗代町にある猪苗代地ビールである。全国で第4位の面積を誇る猪苗代湖は、標高514mという高所にあるため別名「天鏡湖」とも呼ばれる。その湖畔に「世界のガラ

ス館」という、世界各国のガラス製品を展示・販売している施設があるが、その同じ敷地内に「猪苗代地ビール館」(福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字村東85、TEL0120-727472' http://www.world-glassware.com/beer/) という施設がある。ここでは、ドイツビールを範に、磐梯山の天然水とドイツの大麥・小麦麦芽、ホップを使用して醸造した猪苗代ビールと、この地ビールに合うオリジナルソーセージなどの料理が楽しめる。

る)、駅からは野口英世記念館方面行きのバスを利用することになる(野口英世記念館のほぼ向かいに世界のガラス館がある)。あまり本数がないので、バスの発車時刻に合うように駅に着くようにすることが重要である。なお、駅前にある塩田自転車店にはレンタサイクルもある。それを利用する手もあるが、行きはともかく、帰りは押して帰ってこなければならぬ定めである。

東京で飲める福島路ビール

なお、先に紹介した福島路ビール、実は東京都内でも飲める。六本木など都内に3店舗あるAUGUST BEER CLUB(アウグスビアクラブ、http://www.augustbeer.com/)ではオリジナルの「アウグスビール」が飲める。現在7種類ほどのビールがあるが、そのうち「アウグスビール・オリジナル」、そして「アウグスビール・マデューロ」は、実は福島路ビールが醸造しているビールなのである。アウグスビアクラブでは、様々なタイプのビールのプロデュースを行っているが、製造はすべて外部委託で、ビールのスタイルに合わせて、各地の地ビール醸造所に製造を委託しているのである。



猪苗代湖畔で飲める地ビール

とりわけ「アウグスビール・オリジナル」はアウグスビアクラブの看板ビールとも言える存在であるが、その醸造を任されているのが福島路ビールということ。同クラブにおける福島路ビールの評価の高さが窺える。この「アウグスビール・オリジナル」、ピルスナータイプのビールなのだが、喉越しがよい割に、苦味が柔らかい。そして、ほのかに濁りがある。このビール、福島路ビールのライオンナップにもない、まさにオリジナルのビールで、福島路ビール工場長の吉田氏に以前伺ったところ、ほんの少し小麦を使っているとのことであった(普通ピルスナータイプは大麦芽のみ使用)。その工夫が、このピルスナータイプのビールを、ピルスナーが好きな



東京のアウグスビールは福島路ビールが醸造している

人にも、逆に苦味の強いピルスナーが苦手な人にも好まれる、稀有な存在にしたいと言える。同クラブのサイトではクラブハウス以外で取り扱っている店についても紹介されている。ぜひ一度味わってみてほしいものである。

「東北魂ビール」が誕生

もう一つ福島路ビールに関して特筆すべき動きがある。「東北魂ビール」の醸造である。これは福島路ビール、そして以前紹介した岩手のいわて蔵ビール、秋田のあくらビールが共同で醸造しているオリジナルビールである。

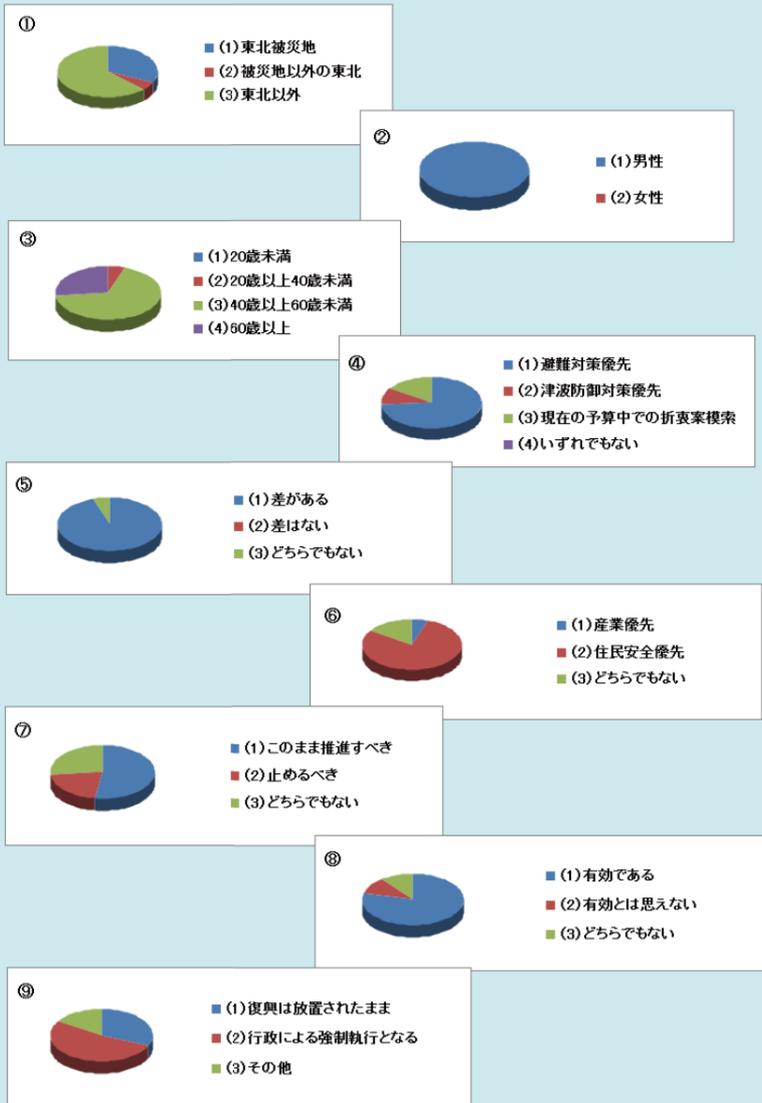
地ビール醸造所同士が共同でビールをつくるというのは全国的に見ても珍しい。その背景には、「震災後の東北が復興を目指して頑張っていることを全国に伝えたい」という思いがあった。

そして「品質のよいおいしいビールを醸造したい」との合言葉の下に、お互いの醸造技術、知識、経験を集めて一緒に一つのビールを創ることになったのである。本来、ビールの醸造に関する技術や知識、経験は、傍から見れば「企業秘密」にも当たるものだが、それらをお互いに晒して、その上で共に向上していくために協力していくという姿勢が素晴らしいと思う。今年初めに登場した第一弾の「アップルジンジャーIPA」は、どこのビールにも似ていない出色の出来であった。現在、第二弾を醸造中で、5月末から東北内外のビアバーで飲める他、今回から瓶でも販売されるそうである。こちらもぜひ味わっていただきたい。東北の「魂」を感じていただきたいと思う。

第23号 ネットアンケート集計結果

あらためて津波防災対策について聞く

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	6
	(2) 被災地以外の東北	1
	(3) 東北以外	12
②	性別	
	(1) 男性	19
	(2) 女性	0
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	1
	(3) 40歳以上60歳未満	13
	(4) 60歳以上	5
④	津波防災対策の基本スタンスは?	
	(1) 避難対策優先	14
	(2) 津波防御対策優先	2
	(3) 現在の予算中での折衷案模索	3
	(4) いずれでもない	0
⑤	公共インフラ復興と住宅復興に差があるか?	
	(1) 差がある	18
	(2) 差はない	0
	(3) どちらでもない	1
⑥	津波防災は、産業中心か、住民安全か?	
	(1) 産業優先	1
	(2) 住民安全優先	15
	(3) どちらでもない	3
⑦	被災住宅地買上げ問題について	
	(1) このまま推進すべき	10
	(2) 止めるべき	4
	(3) どちらでもない	5
⑧	応急避難場所としての中層建物建設について	
	(1) 有効である	15
	(2) 有効とは思えない	2
	(3) どちらでもない	2
⑨	住民合意が最後までできない時はどうなるか?	
	(1) 復興は放置されたまま	6
	(2) 行政による強制執行となる	10
	(3) その他	3



今回は「あらためて津波防災対策について聞く」でした。前号の宮城・ゆりあ地区取材に関連し、現在進行中の津波対策事業とは別に、本来の津波対策がどう展開されると良いかについてお聞きしました。むずかしい質問でしたが、特に被災地の方々からたくさんご回答をいただきました。回答者数は19名。

「津波防災対策の基本スタンス」は、防御するより「避難対策優先」が圧倒的で73・7%。「公共インフラ復興と住宅復興に差があるか?」は、「差がある」が圧倒的で94・7%、「差がない」はゼロ回答。「津波防災は、産業中心か、住民安全か?」は「住民安全優先」が圧倒的で78・9%。被災住宅地買上げ問題はどの被災地でもなかなかすんなり行かない課題ですが、今後も見直せずに推進すべきか、さまざまな問題があるのでは行おうべきではないと思うかどうかについて聞いたところ、「このまま推進すべき」が最も多く、52・6%、「止めるべき」が21・1%、その他、となりました。「応急避難場所としての中層建物建設について」は「有効」が圧倒的で78・9%。「住民合意が最後までできない時はどうなるか?」は意見が割れ、「行政による強制執行」が最も多く52・6%、「復興は放置されたまま」が31・6%、その他という結果でした。

今回のアンケート結果から、津波防災対策について、被災地の方々の意見が聞ける貴重な機会となりました。また、被災地以外の方々の意見も聞ける貴重な機会となりました。今回のアンケート結果から、津波防災対策について、被災地の方々の意見が聞ける貴重な機会となりました。また、被災地以外の方々の意見も聞ける貴重な機会となりました。

編集後記

ようやく本格的な春を迎えることができました。ときには初夏を思わせるような陽気も多くなってきた。年明けからの度重なる大雪続きがまるでそのように、一挙に季節が変わった。そしていつせいに花も咲いた。例年より暖かくなるのが遅れたせいか、短期間のうちに、あらゆる花がいつせいに開花したように感じる。

同時に、寒さで強張っていた身体も大分ほぐれてきた。ようやく待ちに待った春を身体中で実感できる季節の到来である。

筆者が寒がりであることは何度も書いた。そんな筆者だからこそ、春の到来は余計にうれしい。

個人的なことながら、寒いとはなほだしく気分も減入る。身体も心も何もかもが硬直してくるよう感じられるのだ。特に今年のはじめは、ひよつとしたら春など来ないのではないかと、思わせるほど寒かった。そのため、避寒地に行つてしまいたいと思つたほどだった。

今回は5月16日発行であるが、少しまえの5月5日は二十四節季では「立夏」である。夏と聞くと、浮き浮きしてくる筆者である。太っているため、夏は弱いと見られがちだが、夏にはめっぽう強い。早く夏になればと願っている。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由 (プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ ✕切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブloid新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

- ・ ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

・ たくさんのご提案をお待ちしています